

【東久留米総合高校の教育課程が私立文系をベースにしているわけ】

東久留米総合高校の教育課程は**私立文系型**をベースに2年次の必修選択を組んでいます。教育課程表を眺めると、**2年次の必修科目に数学が1科目もない**ことに気づかれるだろう。このことから本校が大学受験指導を諦めたのではないか、と思いきや違ひされかねませんが、実はその逆で、2年次の必修選択科目（2年次の選択科目は全員が必ず10単位分の授業を選択しなければならない）をよく見ると、**理系に進学を希望する場合、理数系の科目ですべての選択枠を埋める**こともできるのです。つまり、**文系・理系とも無駄なく**（学問に無駄はないがあえていうなら）**将来の進路に備えた対策ができる仕組み**になっているのです。このように、新教育課程は、約75%が四年制大学に進学する本校生徒の実態とニーズに合致したものになっているのです。

国公立大学と私立大学の学費に大きな開きがある理系進学希望者は国公立型で受験できるようにしつつも、進路指導の際、本校では文系進学希望者には、**地方の国公立大学と都内の私立大学をしっかりと吟味**させています（国立文系型の科目選択ができるようになってきているのはいうまでもありません）。下の表の通り、国立大学は国立大学法人になり授業料を各大学で決定できるようになったものの、ほとんどの大学の授業料は同額で、私立大学文系と比較すると明らかに割安です。しかし、**親元離れて生活させるための仕送り額を加算すると経費はたちまち逆転**してしまいます。

しかも、**都内の大学が首都圏の企業に強みを持つ**ように、**地方の国公立大学も地元企業への就職に強み**を持っています。**ほとんどの生徒が4年後に東京に戻ってくる希望を持っている**ことを考えると、文系に限って言えば地方の国公立大学より地元東京の私立大学に進学する方が、多くの生徒たちの希望を叶える可能性が高いことをおわかりいただけるでしょう。

【自宅から首都圏（都内）の私立大学に通わせるか、地方の国公立大学に通わせるか】

	授業料（年間） ※私立は施設充実費等を含む	仕送り平均額（年間） ※アルバイト代での補充必要	概算総額（年間）
国立	535,800 円（文理同額）	1,080,000 円 90,000 円×12（家賃込み）	1,615,800 円
私立	1,204,000 円（早稲田文系） 1,113,250 円（慶応文系） 1,093,300 円（明大文系） 1,140,000 円（大妻女子）	※自宅通学者（学割定期代） ※私立理系は概ね+30万円 ※私立薬学系は概ね+90万円	授業料+通学定期代 1,243,420 円 ※東村山から早稲田大学に通学する場合

※学生対象のアパート・マンションの家賃（県庁所在地）は概ね30,000円～50,000円

※いずれも教科書代等の諸費用は含んでいない

※数字は東京地区私立大学教職員組合連合調べ